

危険予測学習の進め方(例) — 並進走行の危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
<p>①交通状況の読み取り (個人～発表)</p>	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (車道の状況、歩行者の状況、周囲の車両の状況など) ・生徒に次のような状況を読み取らせる。 自転車で車道の左側を友人と並んで走行している。 二人は話に夢中になり、ハンドルが接触しそうなくらいに近づいている。歩道には高齢者と幼児を連れのお母さんがいる。
<p>②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)</p>	<p>このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・自転車走行に関わる危険だけではなく、狭い歩道を歩いている高齢者や幼児が思わぬ行動をとることも予測させ、並進の危険性を考えさせたい。 <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大(大変)だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
<p>③回避方法の考察</p>	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
<p>④まとめ</p>	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「並進走行はしない」「歩行者や周囲の車両をよく見る」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

安全上の望ましい行動	<p>① 並進走行は、とっさの危機回避ができなく大変危険なので絶対にしない。(教則第3章第2節2(5)参照)</p> <p>② 並進走行は車道を大幅に占領するため、他の車両の走行の妨げになったり、接触したりする危険があるので、必ず一列で走行する。</p> <p>③ 自転車同士が接触した場合、車道中央にはみ出し、他の車両とぶつかったり、歩道に乗り上げ歩行者に怪我をさせたりする危険もある。</p> <p>④ 歩道上の歩行者が、段差に足をとられたり、物にぶつかったりして急に車道に飛び出すことも考えられるので、歩行者の様子には十分注意を払い運転する。</p> <p>⑤ 自転車も車両の仲間だということをしっかり意識して、歩行者や車両の迷惑にならないように交通ルールを守って走行する。</p>
------------	--